



2021年11月12日

各位

会社名株式会社ヘリオス
代表者名 代表執行役社長 CEO 鍵本忠尚
(コード番号：4593 東証マザーズ)
問合せ先 執行役 CFO リチャード・キンケイド
(TEL：03-5962-9440)

**金融収益、金融費用、及びその他の費用の計上
並びに営業外費用の計上（個別決算）に関するお知らせ**

当社は、2021年12月期第3四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年9月30日）において、下記のとおり金融収益、金融費用及びその他の費用を計上いたしましたので、お知らせいたします。また、個別決算において営業外費用を計上しましたので、合わせてお知らせします。

記

1. 金融収益の内容

2021年12月期第2四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年6月30日）において、922百万円を金融収益に計上しておりましたが、当第3四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日）にデリバティブ評価損^{※1}207百万円が発生したこと等により、当第3四半期連結累計期間において、715百万円を金融収益に計上いたしました。主な内訳は、デリバティブ評価益^{※1}715百万円の計上であります。

※1 デリバティブ評価損益

デリバティブ評価損益とは、当社が2019年7月に海外投資家向けに発行しております転換社債型新株予約権付社債の新株予約権相当額を、2021年12月期第3四半期末時点の公正価値で評価したことに伴い発生した評価損益であります。2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準（IFRS）の規則に従い計上しております非現金損益項目です。

2. 金融費用の内容

2021年12月期第2四半期連結累計期間において、金融費用285百万円を計上しておりましたが、当第3四半期連結会計期間に社債利息^{※2}138百万円、新株予約権の評価損^{※3}82百万円、及び支払利息10百万円が発生したこと等により、当第3四半期連結累計期間において、516百万円を金融費用に計上いたしました。主な内訳は、社債利息^{※2}402百万円、新株予約権評価損^{※3}82百万円及び支払利息30百万円の計上であります。

※2 社債利息

当第3四半期連結累計期間に計上した社債利息402百万円のうち、372百万円は償却原価法により計上した費用です。※1と同様に2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準(IFRS)の規則に従い計上しております非現金支出費用です。

日本基準においては、転換社債の発行額を全額負債として計上し、発行手数料を費用として計上していましたが、国際会計基準(IFRS)においては、転換社債の発行額から発行手数料を控除した手取り収入額を、一定の基準に基づいて負債と資本とに区分して計上します。その結果、転換社債の額面金額と負債として計上される金額とに差異が生じるため、その差額を社債利息として每期償却(費用化)しております。

※3 新株予約権評価損

新株予約権評価損とは、当社が2021年8月に取得した新株予約権を、2021年12月期第3四半期末時点の公正価値で評価したことに伴い発生した評価損であります。2020年12月期第1四半期より導入している国際会計基準(IFRS)の規則に従い計上しております非現金損益項目です。

3. その他の費用の内容

2021年12月期第2四半期連結累計期間において、その他の費用5百万円を計上していましたが、為替相場の変動により当第3四半期連結会計期間に1百万円の為替差益が発生したこと等により、当第3四半期連結累計期間において、4百万円をその他の費用に計上いたしました。主な内訳は、為替差損4百万円の計上であり、主として外貨建債務の決済に伴い発生した実現損益によるものです。

4. 営業外費用の内容(個別決算)

2021年12月期第3四半期の個別決算において、2021年9月に発行した株式の発行費用として、営業外費用に株式交付費30百万円を計上いたしました。

なお、個別決算における上記の営業外費用は連結決算においては資本から控除しているため、連結業績に与える影響はありません。

5. 業績に与える影響について

上記の1, 2, 3に記載の金融収益、金融費用及びその他の費用の業績に与える影響につきましては、本日公表の「2021年12月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)」をご参照ください。

以 上